

親子クイズ 542

Q 灰色の枠の中の文字を並べ替えると何になるでしょうか。

1. ペンギンの飼育数が世界で一番多い国は？ ☐ ☐ ☒
2. シマウマの皮膚は何色？ ☒ ☐
3. キリンは何科の動物？ ☐ ☒
4. ほ乳類の中で空を飛ぶ動物は？ ☒ ☐ ☐ ☐
5. Sloth は日本語で何の動物？ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐

※枠の中にはひらがなを入れてください。

【第541回解答】

春夏秋冬

■応募締切／7月10日(月)必着
■あて先／〒783-8501
南国市大堀甲2301
南国市企画課「親子クイズ係」
*はがきで応募
■賞品／正解者の中から抽選で、5名に
図書カード(1,000円)を贈呈

★応募総数／92通 ★正解率／97%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

【第541回当選者】

中野	陽子	(大塚甲)
山口	とも江	(緑ヶ丘)
土居	玉恵	(大塚甲)
山本	眞由	(国分)
今井	友海	(岡豊町)

に
こ
に
こ
ライ
フ

198



毎月20日に
立っています

かけひ かず ゆき
 算 和幸 さん
 (岡豊町)



去年より交通指導員をやっています。また消防団もやっており、今は中島班の分団長をやっています。農業推進委員にもなりました。

仕事は農家をしており、ニラと米を作っています。農家の前は、コンクリー

ト製品を扱う会社にて22年勤めていましたが、父が倒れたのを機に農家になりました。最近の農業については難しいと感じています。4・5月に乾燥していたり、6月に雨が降らなかつたりします。そのため昔と比べて作業量が増えました。ニラと米で現在手一杯でほかのものに手を出すのは無理です。

交通安全指導員としては、毎月20日の交通安全の日に、道路に立っています。立っていると地元と同じ消防団員の子供がよく声をかけてくれます。また、市役所の危機管理課と協力して、保育園や小学校におはなし会へ行ったりします。おはなし会の中で自分でも学ぶことがあり、一緒に勉強をしている感じですが。マラソンや駅伝の走路員をすることもありますが、言う事を聞かない方もいて、大変です。

家族は3人目の孫ができて、2世帯住宅に住んでおります。休日はDVDを見るが多く、週2で借りに行きます。映画をよく見ますが、孫はアニメをよく見ており、一緒に見る人が多いです。

性格はこだわりなどなく、場を盛り上げる性格とのこと。取材も楽しくお話を聞かせていただきました！

市民からのお便り

(親子クイズ)中1の息子とがんばりました！楽しかったです！

なんこく歴史散歩

第
54
回

一士佐勤王党志士 島村衛吉一

幕末維新の南国

島村衛吉は下島の郷士の家に生まれました。母は武市半平太の妻である富の叔母でした。幼少の時に高知城下新町（現高知市桜井町）に移り住み、けいがく経学のほか剣・槍・弓・鉄砲等の武芸を磨きました。

安政元（1854）年初めに江戸に出て、坂本龍馬も剣道の修業をした千葉道場に入り、修行しました。10月には土佐に帰国し麻田勘七の下で「万流」の皆伝をうけます。

安政4(1857)年に再び江戸
に行き桃井春蔵に入門します。この
道場は、幕末江戸の三大道場の二つ
で、技は「千葉」、力は「斉藤」、位は
「桃井」とも言われていました。武市
半平太や岡田以蔵とも修業した道
場です。ここでも皆伝をうけ塾頭にも
なる剣の達人でした。

文久元（1861）年に衛吉は半平太に従って再び江戸に武芸修行に行きました。この時、半平太は水戸・薩摩・長州などの志士と交流をしたことで勤王の意思を固め、8月に土佐勤王党を結成します。衛吉はこれに率先して加盟し、半平太と以後行動をとともにします。しかし勤王党の活躍もすぐに終わり、文久3（1863）年9月、半平太、衛吉ら多



島村衛吉の
墓(下島浜)



記念碑(下島浜)



■ 問い合わせ
生涯学習課文化財係
☎ 880・6569

私には弟が一人いる。私たちは正反対の性格で、人との付き合い方も大きく違う。弟は会社員でありながら、米を作っている。そして、亡父と同じように、独居の伯母の世話に每晚通うことまでしていた。その上、人付き合いのいい弟は、夜の高知の街の経済にも大いに貢献していた。

お互いに思ひは通じているので「無理しなよ。倒れたらみんなが困るからね(笑)」と言う私に「僕の心配じゃないの?」(笑)と返していた。

一月中旬、心配が現実となってしまった。夜中十二時「左半身に力が入らん」と弟からの電話。救急病院での診断は脳出血。「覚悟してください」との医師の言葉に震えた。四十日程の入院生活の後、弟が自力で歩き帰宅できた時には、亡父やご先祖様に感謝したことだった。

それと同時に、弟が回復できたのには、医療の力は勿論だが、周りの人たちの思いやその人たちとの関係が大きかったと思う。仕事関係、サークル仲間、友達、行きつけの店と、私の知らない方々が連日お見舞いに来て下さっていた。

温かい思い

言ってくれるおじさん。「これは難しいね」とリハビリに付き合ってくれる若者もいた。四月になり、田を耕し田植えをしてくれたのは、父のころから親しい関係にあった近所のおじいさん達だったので、言語の領域の出血はなかったの、弟も周りのみんなも何事もなかったかのように笑顔で軽口をたたきあっていった。

そんなころに読んだ娘の大学同窓会の会報に「恩送り（ペイ・フワード）」という言葉が載っていた。

誰かからいただいた恩（厚情・親切）をその相手に返す「恩返し（ペイ・バック）」ではなく、次の誰かに恩を渡すことで「恩」は広がっていくという、アメリカでとり上げられている社会現象だそうである。

さあ、これからどう生きて行くか。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■ 問い合わせ
人権啓発広報委員会
☎ 880・6569